

令和4年度
岩内あけぼの学園

事業報告書

社会福祉法人あけぼの福祉会

目 次

I. 利用者の状況	P3
1. 入退所状況	P3
①岩内あけぼの学園(施設入所支援)	P3
②岩内あけぼの学園(通所・生活介護)	P3
2. 居室と担当職員の状況	P4
II. 職員の状況	P5
III. 見学・実習生の受入状況	P5
IV. 研修の状況	P6
1. 職場外研修の状況	P6
2. 職場内研修の状況	P7
V. 年間行事の実施状況	P7
VI. 生活支援の状況	P8
1. 各種スポーツ大会等の状況	P8
2. 社会生活活動の実施状況	P8
3. サークルとコンサート鑑賞の実施状況	P8
4. 避難訓練の実施状況	P8
5. 建物や設備の整備について	P8
6. 生活棟(別棟)えみしあの運用について	P9
7. 通院や入院への対応について	P9
8. 新型コロナウイルス感染症への対応について	P9
9. リハビリ支援について	P9
10. 行事の実施について	P9
11. 学校との連携と将来的な人材確保について	P10
12. 広域避難訓練の実施について	P10
13. グループホーム ラフォーレの支援について	P10
14. 在宅(通所)利用者の支援について	P10
15. 記録管理システムについて	P10
16. 障がい者虐待防止について	P10
17. 利用料収入と支援スタッフの確保について	P10
VII. 食事提供業務の状況	P11
VIII. 健康管理の実施状況	P11
1. 日常生活における予防及び衛生	P11
2. 住環境の清潔と感染性疾患の予防	P11
3. 日常の健康管理	P11～12
4. 健康診断の実施と各種検診の受診	P12
5. 感染症罹患者への対応について	P12
IX. 苦情解決について	P12
X. 日中活動支援の状況	P13
1. 活動グループの状況	P13
2. 各活動グループの活動状況	P13
① 生活介護Ⅰグループ	P13～14
② 生活介護Ⅱグループ	P14
③ 生活介護Ⅲグループ	P14～15
④ 生活介護Ⅳグループ	P15
⑤ 生活介護Ⅴグループ	P16

I. 利用者の状況について

1. 入退所状況

①. 岩内あけぼの学園、施設入所支援利用者動向

月	現員	施設入所支援状況		異動の状況
		入所	退所	
4	50			
5	50			
6	50			
7	50			
8	50			
9	50		1	O・Tさん(退所)
10	49			
11	49			
12	49			
1	49			
2	49			
3	49			
合計	594		1	

②. 岩内あけぼの学園、(通所)生活介護利用者動向

月	現員	通所利用状況		異動の状況
		通所	退所	
4	10			
5	10	1		K・Aさん(通所)
6	11			
7	11		1	N・Tさん(退所)
8	10			
9	10	1		U・Eさん(通所)
10	11			
11	11		1	U・Eさん(退所)
12	10			
1	10			
2	10			
3	10		1	S・Kさん(令和5年3月31日付 退所)
合計	124	2	3	

2. 居室と担当職員の状況(令和5年3月31日現在)

① 施設入所支援サービス利用者

利用者名 (男性)	担当職員		利用者名 (女性)	担当職員	
	担当	副担当		担 当	副担当
K・Kさん	O・K	T・Y	N・Kさん	F・M	N・N
N・Rさん	O・K	T・Y	K・Sさん	F・M	N・K
I・Gさん	H・S	Z・K	A・Tさん	F・M	S・A
T・Tさん	H・S	Z・K	S・Mさん	M・A	F・I
T・Tさん	M・T	I・T	F・Mさん	管理職	
M・Mさん	M・T	I・T	I・Hさん	N・K	M・A
I・Hさん	K・M	M・Y	E・Hさん	N・K	U・Y
T・Mさん	K・M	N・S	W・Aさん	N・K	N・N
M・Sさん	N・S	U・K	H・Eさん	T・M	N・K
T・Kさん	N・S	M・Y	T・Kさん	N・N	N・K
I・Zさん	M・Y	M・R	N・Yさん	N・N	S・A
M・Mさん	M・Y	M・R	H・Hさん	S・A	N・K
T・Tさん	Z・K	U・K	O・Rさん	S・A	M・A
K・Hさん	Z・K	M・Y	K・Kさん	U・Y	S・A
S・Hさん	Z・K	H・S	T・Kさん	I・T	N・N
O・Sさん	U・K	O・K	M・Tさん	I・T	F・M
U・Kさん	U・K	O・K	Y・Hさん	T・M	F・I
W・Tさん	T・Y	M・T	S・Yさん	N・N	T・M
I・Kさん	T・Y	M・T	I・Rさん	F・I	I・T
K・Yさん	M・R	H・S	N・Hさん	K・M	M・A
A・Sさん	M・R	K・M	W・Hさん	T・K	F・M
Y・Tさん	I・T	N・S	K・Yさん	E・T	F・M
Y・Mさん	I・T	N・S	Y・Tさん	K・T	F・I
S・Kさん	T・Y	K・M	S・Sさん	M・H	T・M
			K・Kさん	T・S	T・M

②通所部 (在宅日中活動サービス利用)

利用者名	担当窓口	副担当	利用者名	担当窓口	副担当
H・Yさん	T・D	K・M	D・Hさん	M・A	T・S
M・Hさん		K・M	N・Kさん	F・I	H・H
S・Kさん		U・K	A・Tさん	K・M	S・M
S・Kさん		T・Y	K・Aさん	M・A	T・M
K・Kさん		M・R			
K・Tさん		I・T			

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

<利用区分>

	施設入所支援	合 計	備 考
施設入所支援利用者	男性 24名 (24名) 女性 25名 (26名)	49名(50名)	・カッコ内は定員
在宅 (通所) 利用者	男性 6名 女性 4名	10名	

Ⅱ. 職員の状況について

月	職員動向		異動の状況
	採用	退職	
4	1		U・Y(採用)
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3		4	I・T(退職)、K・T(退職)、T・S(退職)、O・T(退職)
合計	1	4	

Ⅲ. 見学・実習生の受入状況

月	日	見学・実習生名
7	7/19～7/21 8/22～8/29	経専北海道保育専門学校実習生(2名) (新型コロナウイルス感染症クラスターの為、7/19～7/21 で実習を中断。8/22～8/29 残りの期間の実習実施。)

IV. 研修の状況

1. 職場外研修の実施状況

月	日	研修名	開催地	派遣職員
4	8	接遇セミナー	オンライン	U・Y
	15	令和4年度社会福祉法人会計実務者決算・財務分析講座	オンライン	T・M
	19	第1回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
	22	リスクマネジメント研修	オンライン	S・M
	28	令和4年度社会福祉法人会計実務者決算・財務分析講座	オンライン	M・A
5	12	第2回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
	17～19	令和4年度強度行動障がい支援者養成研修 基礎研修	オンライン	U・Y
	20	令和4年度自閉症援助技術研修会 初任者研修会	オンライン	U・Y
6	2	令和4年度 4法人自閉症勉強会	オンライン	M・A
	8	第3回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
	29	第1回支援研究委員会 全体ウェブ会議	オンライン	F・M
7	14	第4回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
8	4～5	令和4年度相談支援従事者研修[現任研修]前期日程	オンライン	H・Y
	5	令和4年度 第1回支援研究委員会	オンライン	F・M
	18～22	北海道サービス管理責任者研修 基礎研修	オンライン	H・Y
	12	第45回てんかん基礎研修	オンライン	U・K T・Y S・A K・M
	16	第5回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
9	6	令和4年度防災業務関係者研修	余市町	H・Y O・K U・K
	6	第6回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
	8	令和4年度後志知的障がい福祉協会 職員研修会	オンライン	K・M N・K
	11	2022年度福祉スキルアップ研修会	オンライン	K・Y
	15	令和4年度防災業務関係者研修	倶知安町	M・K
10	3	令和4年度相談支援従事者研修[現任研修]後期日程	オンライン	H・Y
	14	第1回危機管理対策委員会	札幌市	O・H
	14	第7回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
11	8	令和4年度 全道知的障がい関係職員研究大会	札幌市	O・H M・A S・A
	14-12/4	令和4年度個別支援計画作成及び運用に関する研修会	オンライン(西引)	O・M
	11	令和4年度 第1回運営研究委員会	仁木町	O・H
12	6	第9回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
	8	令和4年度後志知的障がい福祉協会権利擁護研修会	オンライン	K・M
			古平町	F・M
	21	令和4年度障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成講座	オンライン	N・K
1	6	第10回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
	20～24	令和4年度社会福祉主事資格認定通信課程スクーリング	神奈川県	Z・K
	25-2/21	令和4年度北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修	オンライン(西引)	H・Y

2	3	令和4年度 第2回支援研究委員会	仁木町	F・M
	9	岩宇地区 異業種研究会	岩内町	H・Y
	13	令和4年度社会福祉法人会計実務決算講座	オンライン	T・M Y・S
	14-3/28	栄養士専門研修	オンライン	K・Y
	14	第11回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
	24	令和4年度 全道施設長研修会	札幌市	O・H S・M
3	2	第12回支援研究委員会職員研修部会ウェブ会議	オンライン	F・M
	14	令和4年度 第3回 支援研究委員会	仁木町	F・M
	25	社会福祉施設等における虐待防止の取り組み推進研修会	オンライン	K・H

2. 職場内研修の実施状況

月 日	テーマ	講師	参加人員
8/17 8/18 8/19	感染症対策(防護服の着脱実践研修)	看護師2名	19名
9/8	後志知的障がい福祉協会 職員研修 第1部「認知症を知る」(zoom) 第2部「自然災害と教訓」	第1部 社会福祉法人侑愛会 施設長 第2部 社会福祉法人南富良野大乘会 南富良野こざくら園 施設長	25名
1/24 1/25 1/27 1/30	個別支援計画の在り方、スキル向上に向けて	O・M	25名
1/30	基礎救命講習	岩内消防署職員	18名
1/31	株式会社3eee 社長講演会	株式会社3eee 社長	17名
2/28	虐待防止権利擁護伝達研修	N・K	19名
			合計 123名

V. 年間行事の実施状況

月	日	行事名	月	日	行事名
4	1	開園記念日 ランチ会	10	5	日帰り旅行
	26			12	〃
				14	〃
				25	〃
				27	ランチ会
			28	ハロウィン行事	
5	3	映画観賞会 ランチ会	11	22	日帰り旅行
	26			29	ランチ会
6	14	バーベキュー	12	23	クリスマス会

7	1 7～9	縁日際 岩内祭り	1	26	新年会
8	30	ランチ会	2	3 14 21	節分行事 バレンタイン行事 ランチ会
9	8 9	花火大会 バーベキュー	3	3 10 30	ひな祭り キャンドルフェスタ ランチ会

VI. 生活支援の実施状況

1. 各種スポーツ大会等の状況

月 日	大会名	参加利用者、結 果	参加利 用者数
10/18	後志知的障がい福祉協会利用者 ボーリング大会	U・Kさん、K・Kさん、F・Mさん	3名

2. 社会生活活動について

- ・今年も町内の新型コロナウイルスの感染状況に応じて、昼食を伴わない買い物を実施した。コンビニエンスストアによる訪問販売は、訪問可能な店舗が無く、実施することができなかつたため、職員代行での買い物やオンラインショッピングを利用した。
- ・利用者の方が活動に参加した際、記録管理システム(クレヨン)へ確実に記録する事で個別の参加状況を細かく把握できる様に取り組んだ。

3. サークル・コンサート鑑賞の実施状況

サークル・コンサート名	実施場所	実施日時	利用者登録	年間実施回数
ハンドメイドサークル	施設内	月2～3回程度	5～6名	25回

4. 避難訓練の実施状況

月 日	訓練の種類	訓練の内容	利用者参加人数	年間実施回数
6/15	自主訓練	夜間避難訓練	49名	7回
6/29	自主訓練	火災報知器操作盤講習	夜勤者対象	
8/23	自主訓練	通報訓練・避難訓練	58名	
9/27	自主訓練	火災を想定した避難訓練	58名	
10/31	原子力防災訓練	原子力災害を想定した避難訓練	61名	
1/14	自主訓練	通報訓練・避難訓練	51名	
3/11	自主訓練	地震・土砂災害を想定した避難訓練	45名	

5. 建物や設備の整備について

7月29日、社会福祉法人北海道共同募金会から助成を受け業務用乾燥機を更新した。(助成額90万円)

6. 生活棟(別棟)えみしあの運用について

生活棟(別棟)えみしあで若干利用者の方の入れ替えを行う中で高齢者に限らず、個々の特性に応じた利用者が生活できる環境とした。今後も利用者の方が落ち着いて生活できるように支援する。

7. 通院や入院への対応について

今年度は男性4名、女性4名の方が、服薬調整や医療的治療が必要で入院となった。そのうち1名は、学園が新型コロナウイルスによるクラスターが発生した際、病院側の配慮で入院しながら透析治療を受けた。

昨年度から重度の腸閉塞で入院されていた女性1名については、身体機能の低下が顕著となり、学園での生活が困難となったことから、身元引受人と協議を行い、入院は継続したまま、9月28日退所となった。更に、12月から入院されている女性1名はレビー小体型認知症と診断を受けており、現在も入院を継続している。

長期的治療となるケースや町内の医療機関に受診した際、診断によっては札幌市の医療機関へ再受診を行うケース、認知機能の低下に伴い、学園での生活が困難となりご家族と今後について協議を行い退所するケースがあった。

今後も通院や入院に至るケースについて、学園とご家族とで連携を図りながら慎重に進めていく。

8. 新型コロナウイルス感染症への対応について

国や道から感染症予防対策の徹底を図るよう通知があったことから、あけぼの学園においても体調管理の徹底、不要不急の外出や第三者による施設への立ち入りを控える等の対応を行った。職員については、道から抗原検査キットの支給を受け、感染予防に努めた。利用者の方の体調や外出状況に応じて抗原検査キットを活用し感染対策を図ったが、7月21日から学園内で感染者が発生し、利用者11名、職員6名が集団感染した。保健所と連携を図りながら、感染拡大を防ぎ、8月8日終息している。

コロナワクチンの接種については、3回目までを昨年度までに終えており、4回目を令和4年9月1日、5回目を12月16日利用者の方と職員が接種した。接種後1日～2日は副作用による発熱等の症状が見られたが、その後は回復している。

帰省や面会について、ご家族のご理解・ご協力を頂きながら、夏期の帰省期間は小樽・札幌方面への帰省や面会等の制限及び中止をお願いした。更に、冬期期間は施設で定めた期間内とし、外出時は健康観察記録に記載をお願いすると共に、人混みを避けるよう対応して頂いた。

あけぼの学園では、今回の集団感染の発生を踏まえ、衛生用品の確保、マニュアル等の整備、職員による防護服着用の実践研修を実施し、感染拡大防止に対応できる体制づくりを行った。職員についてはマスク着用を徹底した中での支援とし、職員自身も体調管理や行動履歴を含め注意喚起を行った。今後も感染症対策に努めた支援を行う。

9. リハビリ支援について

医師の指示の下、リハビリが必要であると診断を受けた利用者の方を対象に、作業療法士が中心となりリハビリを実践している。医師の指示の下、個々に合わせたプログラムを作業療法士が組み立て、支援ワーカーや看護師が連携して機能訓練を行った。今後も利用者個々の身体機能や生活状況を把握しながら専門的な支援を行う。

10. 行事の実施について

今年度は感染症対策を行いながら、ウイングベイ小樽や余市イオンでのショッピングに分かれ日帰り旅行を実施した。その他、昨年同様に利用者の方が園内で楽しめる行事として、縁日際や花火大会、キャンドルフェスタを行った。

感染予防対策や職員が連携し行事を企画したことで、利用者の皆さんに楽しんで頂くことが出来た。

11. 学校との連携と将来的な人材確保について

毎年行っている町内の小学生と利用者の方との交流会は、感染症対策から今年度も中止となったが、岩内町立西小学校5年生の授業で「障がい」をテーマにした講義を職員が行った。

経専北海道保育専門学校の実習生2名の受け入れを行っており、今後も積極的に実習生を受け入れながら、地域との交流やPR活動を行い、将来的な人材確保に努めていく。

12. 広域避難訓練の実施について

原子力災害における原子力防災訓練を令和4年10月31日に実施した。今回は通信訓練と倶知安町後志総合振興局へ利用者4名、職員3名がハイエースに同乗し避難訓練を行った。次年度も引き続き訓練を行い、有事の際に備えることとする。

13. グループホーム ラフォーレの支援について

生活拠点であるグループホームと情報を共有し出来る限りのバックアップを行った。今後もグループホームと連携を図りながら、利用者の方が落ち着いて生活することができるよう支援する。

14. 在宅(通所)利用者の支援について

感染症対策で法人の対応に沿って自宅での検温、マスクの着用、発熱時は通所不可、健康観察記録の記載について、ご家族に協力を依頼した。

また、8月から通所利用者の過ごす場所を創作棟から学園内とえみしあ棟内に変更した。活動内容は、散歩や日中活動の他、レクリエーションとしておやつ作りを行った。

今年度は法人内で通所利用者の方を対象とした生活介護の一本化へ向けた準備を進め、サンライズの生活介護利用者の方と地域交流センターでレクリエーション等の合同活動を行い、楽しく参加することが出来た。

15. 記録管理システムについて

記録管理システムを活用し、利用者の方の日常の生活状況をきめ細かく把握し記録することを徹底し、そのデータを健康管理や個別ケース等の支援に活用した。

また、蓄積されたデータを活用しモニタリングやアセスメント(評価)を行い、利用者の方の個別支援計画(ケアプラン)を策定した。

16. 障がい者虐待防止について

障害者虐待防止法を順守し、施設内における虐待防止委員会を毎月開催した。また、虐待防止に関わる施設内研修、オンライン研修への参加を行った。更に、職員は支援項目を確認するチェックシートの実施、利用者の方については利用者自治会(はばたけ会)を通して虐待についての説明を行った。

17. 利用料収入と支援スタッフの確保について

国や利用者から支払われる一般的な支援費のほか、重度障がい者支援加算や人員配置体制加算、夜勤職員配置体制加算などを活用し、施設の収入財源を確保したうえで、国が定める一定の配置基準以上(今年度実績は利用者1.7名に対して支援スタッフ1名以上)の支援スタッフにより、利用者に対する日々の支援サービスを提供することが出来た。

夜間はあけぼの学園本体に職員3名、生活棟別棟(えみしあ棟)にも夜勤職員1名を配置し、夜間専門職員と日中支援職員とで協力して支援にあたった。

職員の採用について、近年、地元出身者や新規採用職員の確保が困難な状況から、人材派遣会社を通して職員1名を採用した。

VII. 食事提供業務の状況

1. 新型コロナウイルス感染症に配慮した食事提供

感染症対策として、男女で食事場所や時間を分けることで密を避ける対応とした。

2. 選択食、希望食の実施

複数の料理からその場で好きな方を選択する献立、メニューブックを参考にして自分の食べたい料理を自由にリクエストし、それを献立に反映させた。更に、毎月実施するはばたけ会(利用者自治会)の中で利用者の方からの要望を聞き、行事食等に反映させた。また、通所利用者の方を対象におやつ作りを行い、喫食を楽しんだ。

3. 行事食、野外での食事会の実施

感染症対策を行いながら、毎月のランチ会、開園記念日、新年会などの行事食のほか、野外での食事会(炭火でのバーベキュー)を行った。

4. 特別食、エネルギー制限食の提供

腎臓疾患、糖尿病の利用者の方への特別食の提供、咀嚼、嚥下機能が困難である利用者の方への数種類に分けた刻み食の提供など、利用者の方の健康状態、嚥下機能に合わせた食事の提供を行った。

また、個人の年齢、体型、運動量、代謝量などを考え、通常の1,800kcalの食事のほか、若年層男女の2,000kcal、さらに1,600kcal、1,460kcal、1,200kcalの食事提供区分を設定し、利用者の方の健康に配慮した。

VIII. 健康管理の実施状況

1. 日常生活における予防及び衛生

①生活習慣、感染症対策として、うがい、手洗い及び手指消毒、外出時はマスク着用を行った。

また、感染症対策から洗面所や出入り口にはアルコール消毒液を常設、エアージェットの使用を中止し紙ペーパーを使用した。

②入浴時は全身の怪我や皮膚の状態を観察し、異常があれば看護師へ報告し迅速に対応するよう努めた。

2. 住環境の清潔と感染性疾病の予防

①感染症予防対策として、トイレの消毒、全館の消毒を毎日実施した。

②ハセツパー水(除菌・消臭効果のある微酸性次亜塩素酸水)に対応した噴霧器を男女各棟、えみしあ棟のDルームに設置することで感染症の予防に努め、併せて加湿器も設置し温度及び湿度の調整に心掛けた。

③アルコール消毒液を各棟、玄関に設置し、手指消毒に努めた。

④正面玄関や職員玄関に検温器を設置し、第三者や職員が施設に立ち入る際、健康状態を把握できるようにした。

⑤可能な限り密を避け、定期的な換気を行った。

3. 日常の健康管理

①検温を毎朝、昼の1日2回測定、異常のあるときは通院を行い、軽易の症状であれば常備薬で対応した。また、新型コロナウイルス感染症の対応で、37.0℃以上の発熱等の症状があった際は、対応マニュアル

ルに沿って迅速に対応することとし、病院へ受診、PCR検査を実施した。更に、発熱はなくても、風邪症状がある場合や感染者との接触疑いがある場合、道から支給された抗原検査キットを積極的に活用した。帰省者や通所利用者の方については、健康観察記録に検温や健康状態等を記入し、学園に提出してもらうことで、感染症対策に努めた。

また、状況については、看護記録に記載するとともに記録システム(クレヨン)に詳細な記録をとった。

- ②全利用者さんを対象に月2回体重測定を行った。また、体重の推移を細かくチェックする必要がある利用者の方については、毎週体重測定を行った。
- ③50歳以上の方と高血圧、呼吸器疾患、循環器症状のある方については、毎日血圧測定と血中酸素濃度を測定し、50歳以下の方に対しては、週1回血圧測定を実施した。数値が安定しない利用者の方に対しては通院を行い、状況や様子については健康管理委員会や各ケース会議で協議した。また、肥満防止、機能維持のために、食事量の検討、散歩、リハビリや体操などを行った。
- ④嚥下困難な利用者の方に対して「健口体操」を継続して行った。更に嚥下機能の低下が顕著となった利用者の方については、看護師、栄養士、作業療法士、支援ワーカーが観察、評価を行うことで、食事形態や支援内容の見直しを図り、医療機関への受診も行った。
- ⑤男女各棟やえみしあ棟を巡回し、利用者の方の健康状態をチェックした。
- ⑥インフルエンザの予防接種を行った。
- ⑦新型コロナウイルスのワクチン接種を5回行った。(新型コロナウイルス陽性になった利用者は4回目まで接種している。)
- ⑧新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン研修への参加や厚生労働省からの通知等で情報収集を行い、支援ワーカーへ感染症対策における防護服着用の実演を全職員へ行った。
また、札幌圏への通院においても感染状況に応じて病院側と協議し、日程を調整・延期するなどの対応を行った。
感染状況によっては、職員や利用者に注意喚起を促すと共に衛生用品や抗原検査キット等の備蓄管理を行った。

4. 健康診断の実施と各種検診の受診

- ①施設で実施する年2回の健康診断は実施しており、身元引受人の了解を頂き、血液検査による癌検診(血液マーカー検査)、便採取による大腸がん検診を実施した。岩内町で実施する各種検診(胃癌、乳癌、婦人科検診)は、新型コロナウイルス感染症による影響で中止となった。
- ②町内の歯科医院で治療が可能な利用者の方については町内で治療を行っている。

5. 感染症罹患者への対応について

インフルエンザについては、今年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底したことで、感染者がおらず蔓延することはなかった。

IX. 苦情解決について

6月の法人苦情解決委員会は開催せず、文書にて内容を報告させて頂いた。身元引受人も含めた苦情4件、要望3件、計7件であった。12月はクリスマス会の前に法人苦情解決委員会を開催し、苦情、意見、要望について報告させて頂き、クリスマス会にもご参加頂いた。

また、朝の朝礼や毎月行う利用者自治会の会議の中で、利用者の方から何点か要望が聞かれ、軽微な要望であった為、これについてはその都度解決した。

X. 日中活動支援の状況

日中活動区分	生活介護(入所)	生活介護(通所)	生活介護(合計)	サンライズ(通所)
人数	48名	10名	58名	1名

1. 日中活動グループの状況について(令和5年3月31日現在) ※○印は活動グループ運営責任者

活動グループ名		令和4年度日中活動編成			在籍数	運営責任者
		利用者名				
生活介護	生活介護 I (いきいき)	I・Zさん	S・Kさん	I・Kさん	9名	○K・M U・K
		S・Kさん	O・Rさん	M・Tさん		
		S・Yさん	T・Kさん	W・Aさん		
	生活介護 II (のびのび)	N・Rさん	T・Mさん	K・Yさん	18名	○F・M O・K
		K・Kさん	Y・Tさん	T・Kさん		
		T・Tさん	T・Tさん	W・Tさん		
		K・Kさん	K・Sさん	Y・Tさん		
		S・Sさん	N・Hさん	Y・Hさん		
	生活介護 III (創作活動)	H・Eさん	I・Rさん	A・Tさん	9名	○N・K T・Y
		M・Sさん	S・Hさん	N・Kさん		
		K・Kさん	W・Hさん	N・Yさん		
	生活介護 IV (個別支援)	E・Hさん	F・Mさん	D・Hさん	12名	○M・A M・T Z・K S・A
		K・Hさん	T・Tさん	A・Sさん		
		I・Hさん	O・Sさん	I・Gさん		
		S・Kさん	K・Tさん	H・Hさん		
	生活介護 V (しいたけ)	K・Kさん	S・Mさん	K・Aさん	10名	○M・Y T・D N・S
		M・Mさん	M・Mさん	Y・Mさん		
		U・Kさん	M・Hさん	H・Yさん		
		K・Yさん	I・Hさん	A・Tさん		
		N・Kさん				

※個人情報の取り扱いにご配慮くださいますようお願いいたします。

2. 各グループの活動状況について

生活介護 I (いきいき) グループ

○目標 (重点目標)

- ・楽しんで活動に参加出来るように個々に応じた個別課題等を設定する。
- ・身体機能維持に向けたリハビリテーションを充実させ提供し健康維持に努める。
- ・色々なレクリエーションを実施し、心身ともにリフレッシュを図る

○どの様な取り組みを行うか

- ①利用者の方が好む個別課題を提供する。
- ②検温と血圧を測定してから活動に臨む。また、活動中も利用者の方の健康状態などに留意した上で活動を提供する。

③個別にリハビリテーションを提供し、無理のない範囲で屋内外での散歩など身体機能維持に努め、新たなリハビリテーションの提供をする。

④レクリエーションを実施し、活動への意欲向上とリフレッシュに繋げる。

○後期の取り組みに対する評価

①個別課題として小さな穴に棒を刺すなど指先の運動、マッチング、編み物作成、パズルなど個々の特性に合わせた活動を提供しており、意欲を持って取り組んでいた。また、個別課題を更新し、飽きがないよう配慮した。

②活動前に検温・血圧・血中酸素濃度を測定し、健康状態等に留意した上で活動しており、活動中に大きく体調を崩す利用者の方は見られなかったが、年齢や体力、身体機能の面から2名の利用者の方が活動グループをのびのびグループに異動した。

③作業療法士と連携し、近距離での散歩、身体機能維持運動を提供しながら、随時内容を見直す事で顕著な健康機能の低下等は見られなかった。

④10月に寿司屋のオードブル弁当を配達してもらい、皆で美味しく食べる機会を設けた。なお、3月中にも食事を兼ねたレクリエーションを行った。

生活介護Ⅱ(のびのび)グループ

○目標(重点目標)

・一人ひとりが楽しみをもって参加出来るよう、活動内容を設定しつつ、その方にとって必要な機能維持やストレスの軽減を図り、落ち着いた生活を送る事が出来るよう支援します。

○どの様な取り組みを行うか

①心身の機能に併せた好む活動(個別課題・軽運動・機能維持に向けたリハビリテーション等)を提供する。

②活動中は利用者の方の心身の健康状態などに留意した上で活動内容を提供する。

③屋内外周辺の散歩(屋外については積雪時まで)を取り入れ、気分転換を図る。

④身体的、精神的特性により、1人での入浴が困難な方に対して、活動内で入浴支援を行う。また、職員の配置に考慮しながらドライブを提供し気持ちのリフレッシュを図る。

⑤定期的にレクリエーションを提供し、活動への意欲向上及び気持ちのリフレッシュを図る。

○後期の取り組みに対する評価

①一人ひとりの得意分野を活かし活動メニューを定めた上で実施内容を決めており、活動を拒否する方もなく取り組んでいた。また、意欲的に参加してもらう為、定期的に個別課題の更新を行った。

②高齢の方や体力の低下が見られる利用者の方も複数いたが、その日の精神状態や特性に応じて活動内容に配慮しており、活動中の体調不良者は見られなかった。

③時折、男女一緒に散歩に出かける機会を設けるなど、気分転換に繋げることが出来た。

職員配置が少ない際や冬期間の活動については屋外への散歩も厳しくなり、屋内での歩行訓練を活動内で毎回取り入れ実施した。

④身体的、精神的特性により1人での入浴が困難な方に対し、ほぼ毎回実施することが出来た。ドライブについては入浴中心で実施しており、ほぼ実施出来なかった。

⑤感染対策を徹底し2月に2グループに分け、お弁当とデザートをテイクアウトし、多目的ホールでレクリエーションを実施した。利用者の方も落ち着いて参加出来ており、楽しそうな表情が見られた。

生活介護Ⅲ(創作活動)グループ

○目標(重点目標)

・季節や行事の作品作りを通して季節感を味わいながら楽しく活動へ参加する。

- ・散歩や歩行訓練などの身体を動かす活動を取り入れ、身体機能の維持とストレス軽減・健康維持に努める。また、心身のリフレッシュを図るため、レクリエーションやドライブなどを提供する。

○どの様な取組みを行うか

- ①個々の能力や興味があることを見極めながら、季節に応じた創作活動の内容を設定する。季節の作品作りを通して季節感を味わっていただく。
- ②散歩や身体を動かす機会を取り入れ、健康維持に努める。また、定期的にドライブを取り入れ、リフレッシュを図る。
- ③レクリエーションを実施することで、心身のリフレッシュを図る。

○後期の取組みに対する評価

- ①毎月、季節に応じた作品作りを行っており、作った作品は食堂に掲示することで職員や他の利用者の方の目に触れ、作品作りの意欲向上へ繋げることが出来た。また、行事担当者から依頼があった際には行事の飾り作りも行っており、クリスマス会や新年会、節分など行事に合わせた作品を作り、食堂や多目的ホールに飾っている。個々に好きな色や素材（スパンコールやお花紙、折り紙など）を聞きながら作品作りを行っており、楽しく活動することが出来た。
2月には「卒業生を励ます会」へのプレゼント作りを行っており、手作りの石鹸を作成した。
- ②ドライブに関しては定期的に実施することが出来た。また、活動について作品の制作がメインとなっており、散歩や歩行訓練など身体を動かす活動は取り入れることが出来なかった。
- ③11月に多目的ホールにてレクリエーションを実施した。利用者の方から希望を聞き取り、希望に沿ったお弁当を昼食として食べた後にデザートバイキング（ゼリーとトッピングフルーツの選択）を行った。ディズニーのDVDを鑑賞しながらゆったりとした雰囲気ですべてを楽しむことができ、利用者の方も意欲的に参加する様子が窺えた。

生活介護IV(個別支援)グループ

○目標（重点目標）

- ・TEACCHプログラムの理念を取り入れた支援を提供しながら見通しの持てる活動を提供する。

○どの様な取組みを行うか

- ①必要に応じて自立課題を更新する。また、落ち着いて活動に参加出来るよう活動スペースや休憩スペースの環境を状況に応じて調整する。
- ②その都度固執の変化に合わせ、生活場面と連携を図りながら固執行動に対して支援のアプローチを行う。
- ③2回目のレクリエーションを園内又は棟内で実施する事で気分転換を図り活動意欲に繋げる。
- ④他施設や関係機関と事例検討や研修を行い、支援に反映させる。

○後期の取組みに対する評価

- ①定期的に自立課題の更新を行い提供した。活動スペースや休憩スペースについては、変更が必要な状況の方がいなかった為、変わりなく設置した。
- ②固執行動に対しての支援アプローチについて、活動場面との連携が必要な方については、10月以前に対応後から固執が軽減された為、そのまま継続としていたところ、1月から何度か使用している物への固執が再燃した。その際生活場面含め対応の統一を図り、その後数回固執は見られていたが、それ以降は落ち着いていた。今後も状況に合わせて対応を検討する。
- ③12月にレクリエーションを実施している。園内で昼食にお弁当を食べて気分転換を図ることが出来た。
- ④研修会等参加することはなかった。次年度は研修会等の機会を設け、理解を深め支援に反映させる。

生活介護V(しいたけ活動)グループ

○目標(重点目標)

- ・椎茸の品質の安定及び、個人や外部への安定した供給ができるよう計画的な製造量の確保に努める。
- ・活動メニューを個々の利用者の方に設定し椎茸の栽培を通して活動に対する意欲向上に繋げる。
- ・軽運動やレクリエーション活動を適宜に取り入れ健康増進、心身のリフレッシュに努める。
- ・安定した納品が出来るよう計画的な製造量の確保に努める。
- ・園芸活動を通して、自然に触れられる屋外での活動機会を提供する。

○どのような取り組みを行うか

- ①ビニールハウス内の温度や湿度を発生に適した状態を維持できるよう経験者の助言を求め、送風機の使用、ほだ木への撒水を気候に合わせて計画的に行う。
- ②椎茸の栽培に関わる活動(ほだ木の運搬、椎茸採取、)を分担する事で活動に対する意欲を高める。
- ③適宜、作業棟、休憩室、椎茸ハウス内の清掃を実施する事で作業しやすい環境を整える。
- ④レクリエーション活動を適宜行い、健康の増進と気分転換を図る。
- ⑤受託作業(箱作り)など、個々の役割を明確にすることで活動に対する意欲を高める。

○後期の取り組みに対する評価

- ①ビニールハウス内の温度や湿度を保つ為、天候に応じて換気調整や撒水を行うことで安定して椎茸の発生が出来た。10月頃からビニールハウス内の温度が低下する為、天井部とサイドの遮光ネットを外し、浸けたホダ木にはシートを被せることで温度と湿気を保つことが出来た。夜間は薪ストーブを焚き温度管理に努め、11月いっぱいまで椎茸を発生させることが出来た。
- ②活動内容については事前に伝えることで混乱なくスムーズに活動を行うことが出来た。
- ③ビニールハウス内の清掃は活動後に行ったが、薪を切った切粉が散らばっており不十分であった。休憩室は害虫が入り込むことから、定期的に清掃を行い清潔な環境を保つことが出来た。
- ④レクリエーションを行う際は利用者の方と話し合い、意見に沿った内容を行うことで活動への意欲向上に繋げることが出来た。
- ⑤12月に北海道信用金庫からポスターの袋詰めの委託があり、800枚を完成させた。身欠きにしんの箱作りについては役割分担を明確にすることで、スムーズに作業を行うことができ、安定して納品することが出来た。